OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	臨床死生学・老年行動学研究分野　活動報告
Author(s)	
Citation	生老病死の行動科学. 2018, 22, p. 35-43
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68276
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

臨床死生学・老年行動学分野　活動報告

１．研究会報告

本研究室では，月 1 回中之島キャンパスにて研究会を開催している。
平成 29 年度は，下記の通り，7 回研究会を開催した。

第 48 回　2017 年 4 月 12 日
話題提供者　宇良　千秋　（東京都健康長寿医療センター研究所）
テーマ　これからの認知症予防とケア；QOL を長く保つために

第 49 回　2017 年 5 月 10 日
話題提供者　川野　健治（立命館大学）
テーマ　高齢者の自殺の疫学

第 50 回　2017 年 6 月 7 日
話題提供者　川島　大輔（中京大学）
テーマ　高齢期の死生観

第 51 回　2017 年 7 月 5 日
話題提供者　小田　利勝（神戸大学名誉教授）
テーマ　少子高齢・人口減少社会と老人の反逆

第 52 回　2017 年 10 月 4 日
話題提供者　ピーター・マーチン（アイオワ州立大学）
テーマ　Healthy Longevity and Successful Aging（健康長寿とサクセスフルエイジング）

第 53 回　2017 年 11 月 8 日
話題提供者　平井　啓（大阪大学）
テーマ　包括的アセスメントと適応障害・発達障害・認知機能障害

第 54 回　2017 年 12 月 13 日
話題提供者　積山　薫（京都大学）
テーマ　心の可塑性研究（基礎）から超高齢社会の問題（応用）へ

２．学位論文一覧

平成 29 年度は，下記の通り，学部生 4 名，博士前期課程の者 2 名，博士後期課程の者 1 名が学位論文を提出した。

卒業論文

施設における世代間交流の特徴が高齢者にもたらす影響	池田　朝子
高齢者の意思決定における追及者傾向低下に関する要因の検討	角谷　くらら
高齢者の精神的健康に与える睡眠環境および睡眠の質の影響	田坂　英理子
高齢期における主観年齢に関する質的研究	吉田　菜穂

修士論文

認知症高齢者のポジティヴ情動活性化法の開発に関する研究	辻　祐美
認知症高齢者における社会的認知機能測定法の検討	新田　慈子

博士論文

心理社会的サポートサービスに対するがん患者の援助要請行動の促進に関する研究	松井　智子

３．業績一覧

以下は，本研究室の教員，研究員，および大学院生による，平成 29 年（平成 29 年 1 月～12 月）の業績一覧である。いずれも第一著者の姓のアルファベット順に記載されており，下線部は本研究室の構成員であることを示す。

【著書】

権藤 恭之．（2017）．日本の読者へのメッセージ 冨沢公子・タカハシマサミ（訳）老年的超越――歳を重ねる幸福感の世界―― 晃洋書房 iii-iv.

Gondo, Y., Masui, Y., Kamide, K., Ikebe, K., Arai, Y. & Ishizaki, T. （2017）. SONIC Study: A longitudinal cohort study of the older people as part of a centenarian study. Pachana, N.A.（ed.）, *Encyclopedia of Geropsychology*. Singapore: Springer Science+Business Media, 2227-2236.

Ishioka, Y., & Gondo, Y. （2017）. Cognition. Pachana, N.A. （ed.）, *Encyclopedia of Geropsychology*. Singapore: Springer Science+Business Media, 487-500.

Inagaki, H., Arai, Y., Gondo, Y., & Hirose, N. （2017）. Tokyo Centenarian Study and Japan Semi-supercentenarian Study. Pachana, N.A. （ed.）, *Encyclopedia of Geropsychology*. Singapore: Springer Science+Business Media, 2401-2407.

Kuwamura, K., Nishio, S., & Sato, S. （2017）. Can we talk through a robot as if face-to-face? Long-term fieldwork using teleoperated robot for seniors with alzheimer's disease. Nishio, S., Nakanishi, H., & Fujinami, T. （eds.）, *Investigating human nature and communication through robots*, Frontiers Media, 62-72.

Toyoshima, A. （2017）. Loneliness and preference for solitude among older adults, Lázár, R.（ed.）, *Psychology of Loneliness: New Research*, Nova Science Publishers: New York, 37-66.

【学術論文】

権藤 恭之．（2017）．百寿者研究から見た望ましい老いのあり方 環境と健康, *30*（1）, 14-23.

権藤 恭之．（2017）．老年的超越の発達を促す社会的側面――社会的ネットワークと社会的活動に関する考察―― 老年医学, *55*（2）, 151-154.

権藤 恭之．（2017）．百寿者研究（特集） 老年社会科学, *39*（1）, 31.

権藤 恭之．（2017）．世代間の認識ギャップおよび、高齢者の強みについて 公益財団法人 損保ジャパン日本興亜福祉財団叢書, *90*, 55-70.

Gondo, Y., Hirose, N., Yasumoto, S., Arai, Y., Saito, Y. （2017）. Age verification of the longest lived man in the world. *Experimental Gerontology , 99,* 7-17.

権藤 恭之・中川 威・石岡 良子．（2017）．老いと闘うか？老いと共生するか？――こころのアンチエイジングはありうるのか―― 医学の歩み, *26*（6）, 668-672.

堀 麻佑子・沼田 恵太郎. （2018）. 迷信行動は結果の正負極性よりも持続時間に影響される 心理科学研究（関西学院大学）, *44*, 31-36.

池邉 一典・権藤 恭之・神出 計・増井 幸恵・石崎 達郎・新井 康通・村上 伸也・前田 芳信. （2017）. 健康長寿の延伸には何がどの程度重要となるのか？ 歯界展望, *130*（1）, 28-31.

春日 彩花・佐藤 眞一・高橋 正実. （2017）. 心理学的知恵研究の展望と発達的検討――「知恵のある」状態の連続性と非連続性―― 生老病死の行動科学, *21*, 15-31.

増井 幸恵・権藤 恭之. （2017）. 心理学的視点からの報告――健康長寿の要因の探求―― 歯界展望, *130*（1）, 49-54.

松井 智子. （2017）. がん患者の心理社会的サポートサービスの利用に対する態度尺度作成の試み 厚生の指標, *64*（7）, 5-13.

Matsui, T., & Tanimukai, H. （2017）. The use of psychosocial support services among Japanese breast cancer survivors. *Japanese Journal of Clinical Oncology, 47*（8）, 743–748.

Nagahama ,Y., Okina, T., & Suzuki, N. （2017）. Neuropsychological differences related to age in dementia with lewy bodies. *Dementia and Geriatric Cognitive Disorders, 7,* 188-194.

Nakagawa, T., Cho, J., Gondo, Y., Martin, P., Johnson, M. A., Poon, L. W., Hirose, N. （2017）. Subjective well-being in centenarians: a comparison of Japan and the United States. *Aging & Mental Health,* 1-8.

Nakazato, K., Shiozaki, M., Hirai, K., Morita, T., Tatara, R., Ichihara, k., Sato, S., Simizu, M., Tuneto, S., Shima, Y., & Miyasita, M. （2018）. Verbal communication of families with cancer patients at end of life: A questionnaire survey with bereaved family members. *Psycho-Oncology, 27,* 155-162.

大庭 輝・佐藤 眞一・数井 裕光・新田 慈子・梨谷 竜也・神山晃男. （2017）. 日常会話式認知機能評価（Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction; CANDy）の開発と信頼性・妥当性の検討 老年精神医学雑誌, *28*, 379-388.

Oba, H., Sato, S., Kazui, H., Nitta, Y., Nashitani, T., & Kamiyama, A. （2018）. Conversational assessment of cognitive dysfunction among residents living in long-term care facilities. *International Psychogeriatrics, 30*, 87-94.

Ogawa, T., Uota, M., Ikebe, K., Arai, Y., Kamide, K., Gondo, Y., Masui, Y., Ishizaki, T., Inomata, C., Takeshita, H., Mihara, Y., Hatta, K., & Maeda, Y. （2017）. Longitudinal study of factors affecting taste sense decline in old-old individuals. *Journal of Oral Rehabilitation, 44*（1）, 22-29.

Ryuno, H., Kamide, K., Gondo, Y., Kabayama, M., Oguro, R., Nakama,, C., Yokoyama, S., Nagasawa, M., Maeda-Hirao, S., Imaizumi, Y., Takeya, M., Yamamoto, H., Takeda, M., Takami, Y., Itoh, N., Takeya, Y., Yamamoto, K., Sugimoto, K., Nakagawa, T., Yasumoto, S., Ikebe, K., Inagaki, H., Masui, Y., Takayama, M., Arai, Y., Ishizaki, T., Takahashi, R., & Rakugi,

H. （2017）. Longitudinal association of hypertension and diabetes mellitus with cognitive functioning in a general 70-year-old population: The SONIC Study. *Hypertension Research.* doi:10.1038/hr.2017.15.[Epub ahead of print].

鈴木 則夫・翁 朋子. （2017）. 立方体模写課題（CCT）と重なった五角形模写課題（PCT）に影響を及ぼす要因の検討 高次脳機能研究, *37*（4）, 395-402.

Tada, S., Ikebe, K., Kamide, K., Gondo, Y., Inomata, C., Takeshita, H., Matsuda, K., Kitamura, M., Murakami, S., Kabayama, M., Oguro, R., Nakama, C., Kawai, T., Yamamoto, K., Sugimoto, K., Shintani, A., Ishihara, T., Arai, Y., Masui, Y., Takahashi, R., Rakugi, H., & Maeda, Y. （2017）. Relationship between atherosclerosis and occlusal support of natural teeth with mediating effect of atheroprotective nutrients: From SONIC study. *PLOS ONE*, https//doi.org/10.1371/journal.pone.0182563.

Toyoshima, A., Martin, P., Sato, S., & Poon, L. W. （2017）. The relationship between vision impairment and well-being among centenarians: Findings from the Georgia Centenarian Study. *International Journal of Geriatric Psychiatry,* 33（2）, 414-422.

蔡 羽淳. （2017）. 百寿者の主観的幸福感――100 歳以上の高齢者はなぜ幸せか―― 生老病死の行動科学, *21*, 45-52.

安元 佐織・権藤 恭之・中川 威・増井 幸恵. （2017）. 百寿者にとっての幸福感の構成要素 老年社会科学, *39*（3）, 365-373.

【学会発表】

藤田 邦子・柴田 千穂・鈴木 則夫. （2017）. 身体パラフレニア（SP）を呈した左半球損傷の 1 例 第 41 回日本高次脳機能障害学会, 埼玉.

権藤 恭之. （2017）. 百寿者から学ぶ、高齢期のしあわせのありかた. 第 20 回公開シンポジウム 健やかに老いる, 大阪.

権藤 恭之. （2017）. 年を取ることは、ポジティブなことなのか 2016 年度日本人間工学会関西支部春季講演会, 大阪.

権藤 恭之. （2017）. 高齢者の「こころ」と「からだ」の健康に関連する要因の探索 第 58 回日本心身医学会総会, 北海道.

権藤 恭之. （2017）. 百寿者の世界 第 147 回老年学・老年医学公開講座, 東京.

権藤 恭之. （2017）. サクセスフルエイジングの枠組みに基づいた高齢期の役割に関する考察 第 30 回日本健康心理学会, 東京.

権藤 恭之. （2017）. 百寿者からのメッセージ 長寿時代を生きるためのヒント 第 3 回京都中部総合医療センター健康フォーラム, 京都.

権藤 恭之・増井 幸恵・中川 威・小川 まどか・石岡 良子. （2017）. 地域在住前期高齢者における老年的超越の発達――SONIC 研究 70 歳コホート 6 年間の縦断データを用いた検討―― 日本心理学会第 81 回大会, 福岡.

堀 麻佑子・沼田 恵太郎・桂田 恵美子. （2018）. 子どもの因果学習――“やってみる”ことで判断は正確になる―― 日本発達心理学会第 29 回大会, 宮城.

堀 麻佑子・沼田 恵太郎・松田 ことの・嶋崎 恒雄. （2017）. コントロール感の生涯発達（1）――中学生と大学生の随伴性判断―― 日本発達心理学会第 28 回大会, 広島.

春日 彩花・佐藤 眞一・権藤 恭之・Takahashi Masami. （2017）. 日本人の「知恵」の構成要素の検討――高齢世代を対象としたインタビューから―― 第 59 回日本老年社会科学会大会, 愛知.

河上 雄紀・沼田 恵太郎・大野 裕史. （2017）. 社交不安は視線の検出を速める――視覚探索課題を用いた実験的検討―― 日本認知・行動療法学会第 43 回大会, 新潟.

楠見 孝・高橋 雅延・権藤 恭之・佐藤 眞一. （2017）. 熟達化とサクセスフルエイジング――誰もがプロダクティヴに過ごせる社会への示唆―― 日本心理学会第 81 回大会, 福岡.

宮野原 勇斗・沼田 恵太郎・中川 威・権藤 恭之. （2017）. 物語の作成と再生におけるポジティヴィティ効果――主題統覚検査（TAT）を参考に―― 日本認知心理学会高齢者研究部会第 15 回, 東京.

武藤 拓之・松本 清明・沼田 恵太郎・権藤 恭之. （2017）. 超高齢者における空間認知能力と運動機能の結びつき――SONIC 研究の 85-87 歳調査から得られた retrogenesis 説の証拠―― 関西心理学会第 129 回大会, 京都.

Nakagawa, T., Numata, K., Hori, M., Miyanohara, Y., Gondo, Y. （2017）. Situation selection and cognitive change for emotion regulation in younger and older adults. 4th International Conference Aging and Cognition, Zurich, Switzerland.

中里 和弘・島田 千穂・舞鶴 史絵・水雲 京・佐藤 眞一. （2017）. 在宅における看取りケアの意思反映が家族の適応に及ぼす影響 第 59 回日本老年社会科学会大会, 愛知.

西田 裕紀子・唐澤 真弓・増井 幸恵・権藤 恭之・氏家 達夫. （2017）. より良い加齢のために重要な心理的資源とは：人生後半期を対象とする学際的研究から 日本心理学会第 81 回大会, 福岡.

沼田 恵太郎. （2017）. 高齢者の条件づけと学習――「得意」と「苦手」を理解する―― 日本行動分析学会第 35 回大会, 福島.

沼田 恵太郎・橋本 裕美・堀 麻佑子・権藤 恭之. （2018）. 次世代への関心が高齢者の潜在的認知に与える影響――世代性プライミング課題を用いた実験的検討―― 日本発達心理学会第 29 回大会 宮城

沼田 恵太郎・小松 丈洋・嶋崎 恒雄・佐藤 暢哉・八木 昭宏・宮田 洋. （2017）. 不安の決定因としての不確実性――XA+/XB-条件性弁別の枠組みを用いた実験的検討―― 第 35 回日本生理心理学会大会, 千葉.

沼田 恵太郎・堀 麻佑子・中川 威・増井 幸恵・権藤 恭之・Jopp Daniela. （2017）. ポジティヴィティ効果の個人差 ――健康長寿研究（SONIC）の結果から―― 日本感情心

理学会心理学会第 24 回大会, 京都.

沼田 恵太郎・堀 麻佑子・宮野原 勇斗・中川 威・権藤 恭之. （2017）. コントロール感の生涯発達（2）――若年者と高齢者の随伴性判断―― 日本発達心理学会第 28 回大会, 広島.

沼田 恵太郎・宮野原 勇斗・中川 威・堀 麻佑子・権藤 恭之・Jopp Daniela. （2017）. 情動ストループ課題におけるポジティヴィティ効果――成熟説と老化説の比較検討―― 日本認知心理学会高齢者研究部会第 15 回, 東京.

大庭 輝・南川 美月・山川 みやえ・佐藤 眞一. （2017）. 介護職員の職務における葛藤とその対処は仕事の動機づけにどのように影響するのか？ 第 18 回日本認知症ケア学会大会, 沖縄.

大場 健太郎・伊藤 友一・権藤 恭之・杉浦 義典. （2017）. 人生を見つめる脳 日本心理学会第 81 回大会, 福岡.

小野口 航・福川 康之・樺山 舞・権藤 恭之・増井 幸恵. （2017）. 高齢者におけるソーシャルキャピタルの地域差と年代差――SONIC 研究の横断的データから―― 日本心理学会第 81 回大会, 福岡.

坂井 麻里子・鈴木 則夫・西川 隆. （2017）. 自発話において頻回にみられた語頭における音韻の反復に関する一考察 第 41 回日本高次脳機能障害学会, 埼玉.

佐藤 眞一. （2017）. 後半生のライフイベントと多様な生き方の選択 第 20 回日本老年行動科学会東京大会, 東京.

積山 薫・上田 祥代・和田 玲子・田部井 賢一・野内 類・佐藤 眞一. （2017）. 高齢期の認知機能活性化とライフスタイル：認知症予防介入研究の最前線 日本心理学会第 81 回大会, 福岡.

島内 晶・佐藤 眞一・西村 昭徳. （2017）. メタ記憶の自己認識類型と精神的健康度との関連――記憶の自信と衰えの自覚における年齢差からの検討―― 日本発達心理学会第 28 回大会, 宮城.

Suzuki, N., Okina, T., & Hasegawa, H. （2017）. A study of cognitive functions affecting performance on the cube copying test （CCT） and pentagon copying test （PCT）. 23th Wold Congress of Neurology, Kyoto, Japan.

竹村 明子・松岡 弥玲・中川 威・権藤 恭之・増井 幸恵. （2017）. 自己調節方略のライフコース（４）――将来の研究の展望―― 第 28 回日本発達心理学会大会, 広島.

Toyoshima, A., Gondo, Y., Yasumoto, S., Ishioka, Y., Masui, Y., Nakagawa, T., Kozono, M., & Tsai, Y. C. （2017）. Criteria for extracting independent centenarians in a rural area: Using data from a local government. 23rd Annual Meeting of the International Consortium of Centenarian Studies, Santa Cruz, U.S.

Toyoshima, A., & Sato, S. （2017）. Age differences in the effects of preference for solitude on emotional well-being. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San

Francisco, U.S.

豊島 彩・佐藤 眞一. （2017）. 社会関係への志向性と高齢期の主観的ウェルビーイングとの関連――中年期との比較による検証―― 第 59 回日本老年社会科学会大会, 愛知.

豊島 彩・佐藤 眞一. （2017）. 成年期以降の孤独感の年代差と関連要因の検討. 日本心理学会第 81 回大会, 福岡.

蔡 羽淳・権藤 恭之・中川 威・増井 幸恵・安元 佐織・神出 計・池邉 一典・石崎 達郎・高橋 龍太郎・新井 康通. （2017）. 高齢者の主観的幸福感に影響を与える要因に関する研究――感謝感情に注目して―― 第 59 回日本老年社会科学会大会, 愛知.

Tsai, Y. C., Gondo, Y., Yasumoto, S., Kozono, M., Ishioka, Y., Toyoshima, A. （2017）. The influence of physical capacity on subjective wellbeing among Japanese oldest old. 15th SPS SGP SSP Conference in Lausanne, Lausanne, Switzerland.

内芝 綾女・天ヶ瀬 正博. （2017）. 高齢者の記憶におけるポジティヴィティ効果 日本心理学会第 81 回大会, 福岡.

吉田 甫・高山 緑・高橋 雅延・竹内 光・土田 宣明・佐藤 眞一. （2017）. 加齢に伴い向上・維持する能力を発掘する 2017 年度日本教育心理学会公開シンポジウム. 東京.

【その他】

柏木 宏・佐藤 宏一・佐藤 眞一・陳 礼美・藤田 綾子・古矢 弘道・堀 薫夫・三田 保則・和田 征士. （2017）. 超高齢社会への NPO 法人大阪府高齢者大学校の挑戦, 高齢者が動けば社会が変わる NPO 法人大阪府高齢者大学校の挑戦 NPO 法人大阪府高齢者大学校, 214-230.

柏木 宏・佐藤 宏一・佐藤 眞一・陳 礼美・藤田 綾子・古矢 弘道・堀 薫夫・三田 保則・和田 征士. （2017）. 自分の学習（楽しみ）と社会貢献をつなげるカリキュラム, 高齢者が動けば社会が変わる NPO 法人大阪府高齢者大学校の挑戦 NPO 法人大阪府高齢者大学校, 231-250.

佐藤 眞一. （2017）. 特集を読んで（特集 超高齢社会における共生を考える）未来共生学, *4*, 110-125.

佐藤 眞一. （2017）. 高齢期の危機は心構えで乗り越える――ライフイベントの対処法―― 高齢者が動けば社会が変わる NPO 法人大阪府高齢者大学校の挑戦 NPO 法人大阪府高齢者大学校, 97-119.

佐藤 眞一. （2017）. がん患者の心理評価・サポートシステム開発・テキスト作成に関する研究 厚生労働科学研究費補助金・がん対策推進総合研究事業（がん政策研究推進事業）『在宅がん患者の栄養サポートに精通した在宅医療福祉従事者の全国的育成システムの開発』平成 28 年度総括・分担研究報告書, 17-19.

佐藤 眞一. （2017）. 人生後半を豊かな心で生きる：ウェルビーイング. 美感遊創, 第 183 号, 9-12.

佐藤 眞一. （2018）. 老年行動学で読み解く親の気持ち 第三文明, 第 697 号, 63-65.
佐藤 眞一. （2018）. 高齢者の心と行動学①～高齢者の運転編～ ステーション, 第 352 号, 65.
佐藤 眞一. （2018）. つらいことを乗り越え　希望を見出していく　ハッピー・エイジングな生き方 佐藤 眞一・佐藤 多門, DUO SCENE STORY 2018 Winter, Vo.6, 6-9.